３.　今月のオススメ図書

2019年本屋大賞

本屋大賞とは、「全国書店員が選んだ　いちばん！売りたい本」のことで、2019年の大賞が発表されています。先月、すでに大賞の瀬尾まいこさんを紹介しておりますが、今月は１位から10位までを紹介します。貸出に関しては、点字版、デイジー版ともに製作中のものもありますので、お問い合わせください。

【大賞】  
[そして、バトンは渡された](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784163907956)　瀬尾まいこ ／ 文藝春秋  
血の繋がらない親の間をリレーされ、四回も名字が変わった森宮優子、十七歳。だが、彼女はいつも愛されていた。身近な人が愛おしくなる、著者会心の感動作。

【2位】  
[ひと](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784396635428)　 ／ 祥伝社  
たった一人になった。でも、ひとりきりじゃなかった。激しく胸を打つ、青さ弾ける傑作青春小説!   
母が急死した。柏木は二十歳の秋、たった一人になった。  
全財産は百五十万円、奨学金を返せる自信はなく、大学は中退。仕事を探さなければと思いつつ、動き出せない日々が続いた。そんなある日の午後、空腹に負けて吸い寄せられた商店街の総菜屋で、買おうとしていた最後に残った五十円コロッケを見知らぬお婆さんに譲った。それが運命を変えるとも知らずに……。  
そんな君を見ている人が、きっといる――。

【3位】  
[ベルリンは晴れているか](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784480804822)　 ／ 筑摩書房  
第160回直木賞候補作  
1945年7月。ナチス・ドイツが戦争に敗れ米ソ英仏の4ヵ国統治下におかれたベルリン。ソ連と西側諸国が対立しつつある状況下で、ドイツ人少女アウグステの恩人にあたる男が、ソ連領域で米国製の歯磨き粉に含まれた毒により不審な死を遂げる。米国の兵員食堂で働くアウグステは疑いの目を向けられつつ、彼の甥に訃報を伝えるべく旅立つ。しかしなぜか陽気な泥棒を道連れにする羽目になり――ふたりはそれぞれの思惑を胸に、荒廃した街を歩きはじめる。最注目作家が放つ圧倒的スケールの歴史ミステリ。

【4位】  
[熱帯](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784163907574)　 ／ 文藝春秋  
第160回直木賞候補作  
沈黙読書会で見かけた『熱帯』は、なんとも奇妙な本だった！謎の解明に勤しむ「学団」に、神出鬼没の古本屋台「」、鍵を握るのカードボックスと、「部屋の中の部屋」。東京の片隅で始まった冒険は京都を駆け抜け、の夜をり、数多の語り手の魂を乗り継いで、いざ謎の源流へ！

【5位】  
[ある男](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784163909028)　平野啓一郎 ／ 文藝春秋  
彼女の夫は「」ではなかった。夫であったはずの男は、まったく違う人物であった。平成の終わりに世に問う、衝撃の長編小説。

【6位】  
[さざなみのよる](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784309025254)　 ／ 書房新社  
小国ナスミ、43。その死は湖に落ちた雫の波紋のように家族や友人、知人へと広がり――命のまばゆさを描く感動と祝福の物語！

【7位】  
[愛なき世界](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784120051128)　三浦しをん ／ 中央公論新社  
恋のライバルが人間だとは限らない!   
洋食屋の青年・藤丸が慕うのは〝植物〟の研究に一途な大学院生・本村さん。殺し屋のごときの教授やイモを愛する老教授、サボテンを栽培しまくる「緑の手」をもつ同級生など、個性の強い大学の仲間たちがひしめき合い、植物と人間たちが豊かに交差する――  
本村さんに恋をして、どんどん植物の世界に分け入る藤丸青年。小さな生きものたちの姿に、人間の心の不思議もあふれ出す。風変りな理系の人々とお料理男子が紡ぐ、美味しくて温かな青春小説。

【8位】  
[ひとつむぎの手](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784103343820)　希人 ／ 新潮社  
人として一番大切なものは何か。若き心臓外科医に課された困難を極めるミッション。医療ミステリーのが挑むヒューマンドラマ。

【9位】  
[火のないところに煙は](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784103500827)　 ／ 新潮社」

「を舞台に怪談を書きませんか」突然の依頼に、作家の「私」は、かつての凄惨な体験を振り返る。解けない謎、救えなかった友人、そこから逃げ出した自分。「私」は、事件を小説として発表することで情報を集めようとするが―。予測不可能な展開とどんでん返しのにあなたも必ずされる。一気読み、寝不足必至！！読み始めたら引き返せない、戦慄の暗黒ミステリ！

【10位】  
[フ－ガはユ－ガ](https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784408537320)　伊坂幸太郎 ／ 実業之日本社  
は仙台市のファミレスで一人の男に語り出す。双子の弟・のこと、決して幸せでなかった子供時代のこと、そして、彼ら兄弟だけの特別な「アレ」のこと。僕たちは双子で、僕たちは不運で、だけど僕たちは、い。